

金沢城調査研究所年報 15

(令和3年度)

令和4年6月

石川県金沢城調査研究所

目 次

I 組織と運営

1 組 織	1
2 委 員 会	1
3 職 員	4
4 分 掌 事 務	4

II 事業報告

1 金沢城調査研究事業	5
2 金沢城資料収集・デジタル化事業	15
3 金沢城情報発信事業	16
4 金沢城調査研究所20周年記念事業	18
5 その他の事業	20
事業費	28
石川県金沢城調査研究所日誌（抄）	29
金沢城に関する新聞報道	30

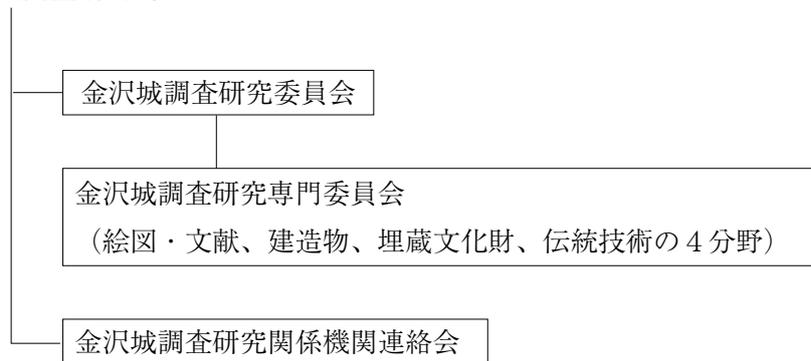
I 組織と運営

1 組織

(1) 沿革

平成13年7月、石川県教育委員会事務局文化財課内に設置された金沢城研究調査室は、平成19年4月に改組し、石川県金沢城調査研究所となった。平成14年度から本格的な調査研究事業に着手し、令和3年度は20年目となる。

石川県金沢城調査研究所



(2) 根拠法令

学校以外の教育機関等設置に関する条例 第2条

名 称	位 置	事 業 内 容
石川県金沢城調査研究所	金沢市	金沢城の調査研究及び普及に関すること

2 委員会

(1) 金沢城調査研究委員会

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染拡大防止の観点等から、対面での開催は行わず、書面にて令和3年度の調査研究事業計画、及び事業成果等について報告等を行った。

(2) 金沢城調査研究専門委員会

例年、絵図・文献、建造物、埋蔵文化財、伝統技術（石垣）の分野ごとに会議や現地調査を実施し、各調査研究事業に関して、指導・助言を受けている。なお、埋蔵文化財と伝統技術（石垣）は相互に密接に関連することから、会議等は合同で行っている。

絵図・文献専門委員会は第1回を令和3年8月18日に、第2回を令和4年3月1日に、埋蔵文化財・伝統技術（石垣）合同専門委員会は第1回を令和3年7月2日、第2回を令和4年3月10日に実施した。ただし、建造物専門委員会については新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染拡大防止の観点等から開催を見送った。

(3) 金沢城調査研究関係機関連絡会

例年、関係各機関の代表者を招き、今後の調査研究事業の計画、最近の主な成果（刊行物等の紹介など）等を報告等しているが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染拡大防止の観点等から本年度は開催を見送った。

【関係機関】

公益財団法人 前田育徳会

公益財団法人 成巽閣

東京大学埋蔵文化財調査室

金沢大学附属図書館

金沢市文化財保護課

金沢市立玉川図書館

石川県立歴史博物館

公益財団法人 石川県埋蔵文化財センター

金沢城調査研究委員会委員名簿（◎委員長）

氏名	役職名	備考
◎平井 聖	東京工業大学名誉教授	建築
飛田 範夫	元長岡造形大学教授	庭園
吉岡 康暢	国立歴史民俗博物館名誉教授	考古

金沢城調査研究専門委員会委員名簿（◎専門委員会委員長）

分野	氏名	役職名
絵図・文献	◎宮崎 勝美	元東京大学史料編纂所教授
	袖吉 正樹	金沢市立玉川図書館近世史料館司書
	竹松 幸香	前田土佐守家資料館学芸員
建造物	河田 克博	名古屋工業大学名誉教授
	麓 和善	名古屋工業大学教授
	増田 達男	金沢工業大学教授
	吉田 純一	FUT 福井城郭研究所顧問
埋蔵文化財	◎吉岡 康暢	国立歴史民俗博物館名誉教授
	久保 智康	京都国立博物館名誉館員
	千田 嘉博	奈良大学教授
	森島 康雄	京都府立丹後郷土資料館資料課長
伝統技術 (石垣)	◎北野 博司	東北芸術工科大学教授
	市川 浩文	佐賀県地域交流部 文化・スポーツ交流局 文化課文化財保護室 文化財調査担当係長
	金田 明大	国立文化財機構奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター長
	西形 達明	関西地盤環境研究センター顧問
	宮里 学	山梨県観光文化部 山梨県埋蔵文化財センター 調査研究課長

3 職 員

名誉所長	北垣聰一郎	所主査	大西 泰正
所長	富田和気夫	主任主事	川名 俊
副所長	栃木 英道	主事	加藤 江莉
総括担当課長	石野 友康	〃	塩野 寛人
担当課長	滝川 重徳	非常勤職員	矢部 史朗
主幹	熊谷 葉月	〃	笠松 一美
〃	西田 郁乃	〃	広田 美幸
〃	安中 玲美	〃	供田奈津子
〃	宮川 勝次	〃	須田 哲太
企画管理専門員	吉田 樹人	〃	大木 一輝
調査研究専門員	荒木麻理子	〃	玉鉾 美智
〃	加藤 克郎		
〃	谷内 明央		

4 分掌事務

- ・ 所事務の総括に関する事
- ・ 調査研究の総括に関する事
- ・ 所員の服務に関する事
- ・ 公印の管守に関する事
- ・ 調査研究委員会等の運営に関する事
- ・ 城郭庭園等の総合研究に関する事
- ・ 埋蔵文化財の調査に関する事
- ・ 発掘現場の労働安全衛生に関する事
- ・ 関連部局との連絡調整に関する事
- ・ 二の丸御殿の調査に関する事
- ・ 普及啓発に関する事
- ・ 石垣保存管理技術等の総合研究（石垣カルテを含む）に関する事
- ・ 伝統技術（石垣）の調査研究に関する事
- ・ 記録資料及び出土品等の収蔵管理に関する事
- ・ 二の丸御殿の埋蔵文化財調査に関する事
- ・ 施設・物品・出役の管理等に関する事
- ・ 資料の保存管理・公開活用に関する事
- ・ 情報化の推進に関する事
- ・ 20周年記念行事の開催等に関する事
- ・ 埋蔵文化財資料（遺構・遺物等）の集成に関する事
- ・ 石垣保全に伴う埋蔵文化財調査に関する事
- ・ 絵図・文献の調査研究に関する事
- ・ 『編年史料』等の編纂に関する事
- ・ 『研究紀要』の刊行に関する事
- ・ 電子情報発信に関する事
- ・ シンポジウム・展示等に関する事
- ・ 関連城郭等との連携に関する事

Ⅱ 事業報告

1 金沢城調査研究事業

(1) 総合研究事業等

ア 城郭庭園等の総合研究－切石積石垣確認調査－

事業概要

本事業は、埋没している初期の切石積石垣を発掘して、出現期の実態（場所・意匠・技術等）を明らかとすることで、外観や意匠を重視した「見せる石垣」が生み出された技術的・社会的背景を探ることを目的とする。

本年度は、平成 29～令和元年度に行った確認調査の成果をとりまとめた報告書を刊行した。

『金沢城跡切石積石垣確認調査報告書』

A 4 判 180 頁、部数 500（うち国補 400）、令和 4 年 3 月 31 日刊行

『金沢城跡切石積石垣確認調査報告書』 目次	
例言 凡例 目次	
第 1 章 調査の経緯と経過	第 1 節 調査に至る経緯 第 2 節 調査の経過
第 2 章 位置と環境	第 1 節 金沢城と周辺の歴史的環境 第 2 節 金沢城の沿革 第 3 節 玉泉院丸の来歴 第 4 節 既往の調査成果
第 3 章 遺構	第 1 節 調査の概要 第 2 節 数寄屋屋敷北調査区 第 3 節 玉泉院丸南東調査区 第 4 節 玉泉院丸北調査区
第 4 章 遺物	第 1 節 概要 第 2 節 陶磁器・土器 第 3 節 瓦 第 4 節 石製品 第 5 節 金属製品
第 5 章 総括	第 1 節 各調査区の成果 第 2 節 金沢城の切石積石垣
引用参考文献	報告書抄録

イ 石垣保存管理技術等の総合研究

事業概要

文化財石垣の保存・管理に必要な技術や方法等について、総合的に調査研究し、金沢城石垣の保存継承に資することを目的とする。

本年度は、城内石垣の保存状態についての詳細調査を実施し、平成 28 年度より進めてきた詳細調査の成果をとりまとめた報告書を刊行。

事業内容

(ア) 石垣の保存状態に関する詳細調査

変形動態に関する調査

- ・三次元データの差分比較による経年変化量の面的把握

対象：①切手門西櫓台石垣（H20 と R2）、②数寄屋敷西鉢巻石垣（H21 と R2）

(イ) 報告書の作成・刊行

『金沢城跡石垣保存実態調査報告書Ⅱ』

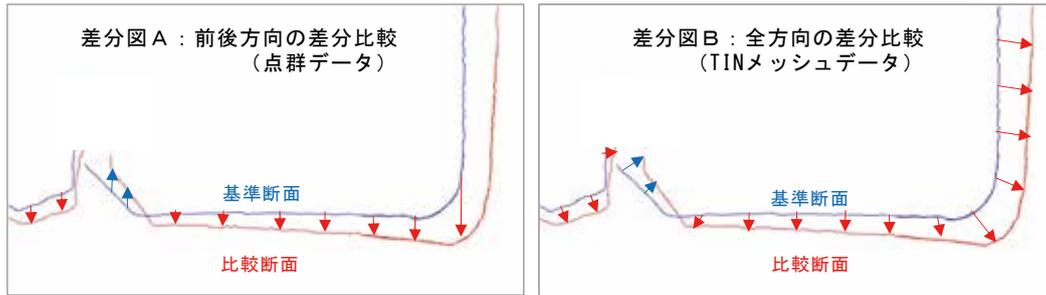
A 4 判 168 頁、部数 500（うち国補 400）、令和 4 年 3 月 31 日刊行

『金沢城跡石垣保存実態調査報告書Ⅱ』 目次	
例言 凡例 目次	
第 1 章 事業の経緯と経過	
第 2 章 調査の概要	
	第 1 節 城内石垣の概要 第 2 節 変形箇所の概要
第 3 章 石垣詳細調査	
	第 1 節 調査の方法 第 2 節 数寄屋敷西石垣 金沢城数寄屋敷地区石垣探査について 第 3 節 玉泉院丸北泉水縁石垣・数寄屋門台石垣 第 4 節 いもり坂脇石垣 第 5 節 本丸北石垣 第 6 節 三ノ丸北石垣
第 4 章 総括	
	第 1 節 調査のまとめ 第 2 節 石垣の管理
引用・参考文献	報告書抄録

変形動態に関する調査

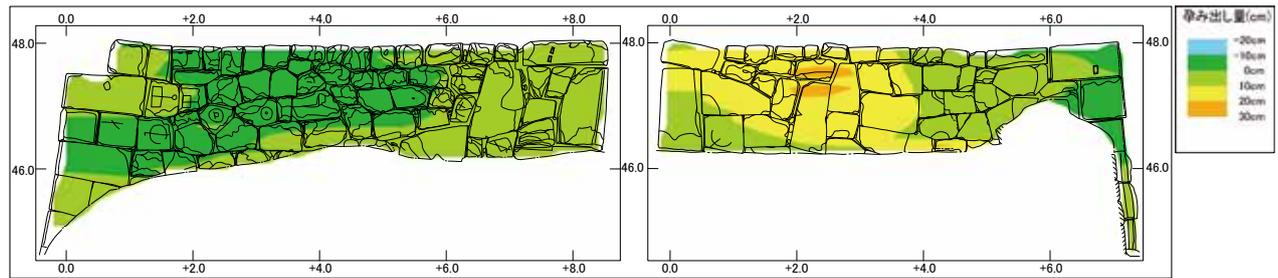
①切手門西櫓台石垣は、東面と南面で前倒れと石口の開きがみられる。差分図により、南東隅部周辺の立石集中部に限局して、前方向への急速な変位の累積が確認された。櫓台上面の樹木が要因と推察される（令和3年5月伐採）。

②数寄屋屋敷西鉢巻石垣は、中央右手が幅約6mに亘って大きく前倒れしており、この部分で変位の累積が顕著である。最も新しい時期に修理された範囲に該当し、修理後に再び変形が進行したものと判断される。変位の累積は同所右手に続くシノギ角に及んでおり、進行範囲の特定が急がれる。また、石垣左端の石積みにも変位の累積が確認される。

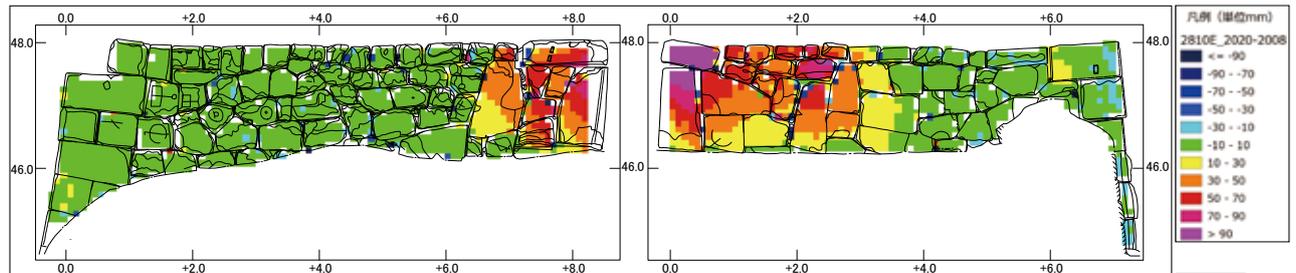


差分解析概念図

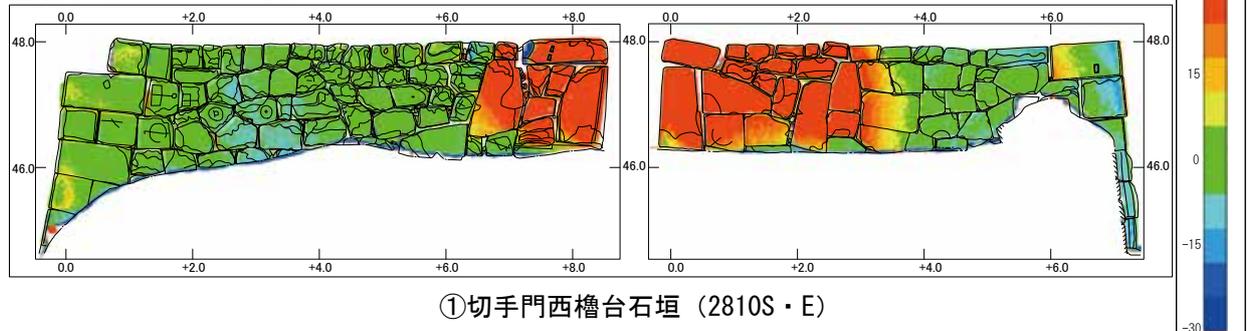
孕み出し量結果図 (基準勾配と現状との差を10cm格子で抽出し、10cmごとにマッピングしたものの)



差分図A【2008～2020年】(点群データから10cm格子でデータを抽出し、前後方向の経年変化量を可視化したもの)



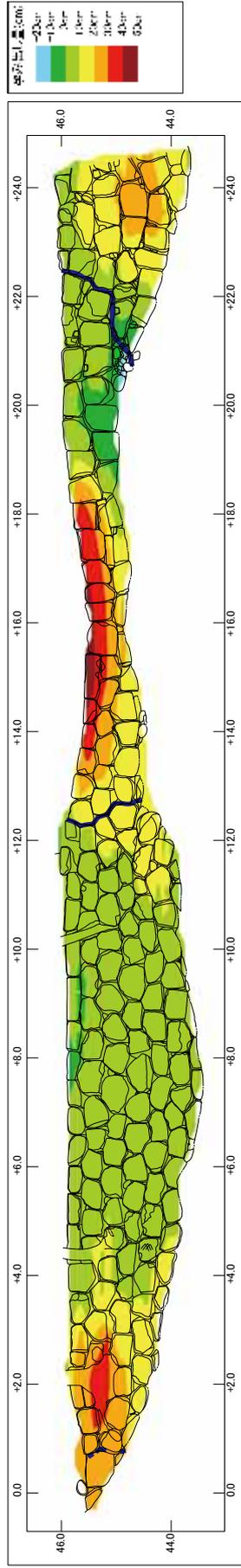
差分図B【2008～2020年】(メッシュデータから、経年変化量を可視化したもの)



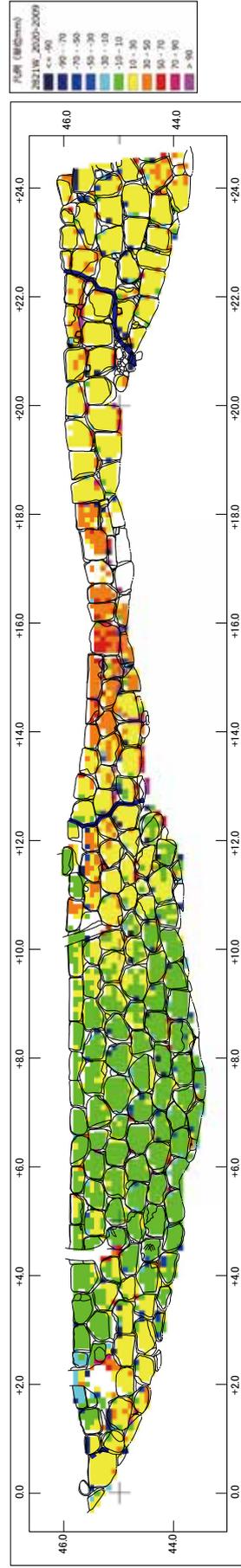
①切手門西櫓台石垣 (2810S・E)



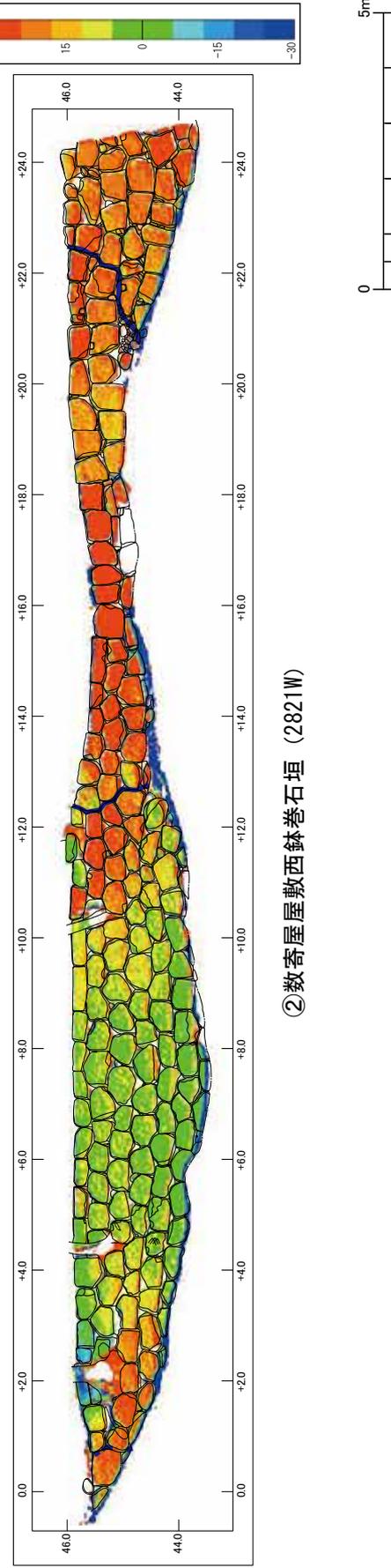
孕み出し量結果図（基準勾配と現状との差を10cm格子で抽出し、10cmごとにマッピングしたもの）



差分図A【2009～2020年】（点群データから10cm格子でデータを抽出し、前後方向の経年変化量を可視化したもの）



差分図B【2009～2020年】（メッシュデータから、経年変化量を可視化したもの）



②数寄屋敷西鉢巻石垣（2821W）

ウ 金沢城関連城郭等との連携

事業概要

金沢城及び金沢城関連城郭・城下等の調査研究に携わる機関が一堂に会して、調査研究に係る情報やその成果を共有し、相互の助言や協力等を行うことで、調査研究手法や技術等の向上を図るとともに、金沢城及び関連する城郭や城下等の特徴や、さらにはそれらの歴史的価値についての理解をより一層深めることを目的として実施している。令和3年度は、金沢城跡二ノ丸御殿確認調査の現地見学と、七尾城跡の調査・整備・活用状況について、情報連絡会を開催した。

事業内容

情報連絡会の開催

・情報連絡会参加機関

金沢市文化スポーツ局文化財保護課埋蔵文化財センター	(金沢城下他)
七尾市教育委員会事務局スポーツ・文化課	(七尾城他)
小松市埋蔵文化財センター	(小松城他)
加賀市産業振興部文化振興課	(大聖寺城他)
白山市観光文化スポーツ部文化財保護課	(舟岡山城他)
富山県富山市教育委員会事務局埋蔵文化財センター	(富山城他)
富山県高岡市教育委員会事務局生涯学習・文化財課	(高岡城他)
東京大学埋蔵文化財調査室	(加賀藩邸)

・連絡会の内容等

連絡会は2回開催し、その内容は下記のとおりである。

第1回(見学会) 令和3年11月25日 金沢城跡

・金沢城跡二ノ丸御殿確認調査の現地見学

第2回(報告会) 令和4年2月28日 石川県教育・自治会館

・「史跡七尾城跡の調査と整備・活用について」

報告者 七尾市教育委員会事務局スポーツ・文化課 北林 雅康氏



第1回 見学会の様子



第2回 報告会の様子

エ 「金沢城編年史料」等の編纂

(ア) 事業概要

第1期事業の成果を踏まえ、第2期事業では、総合的な編年史料集の編纂事業を行うこととしている。令和3年度は『金沢城総合年表 後編』の刊行に向けて、補足的な調査を行うとともに、最終的な収載項目を決定し刊行した。

(イ) 『金沢城総合年表 後編』の編集・刊行

『金沢城総合年表 後編』は、宝暦9年(1759)から明治4年(1871)の金沢城をめぐる出来事(1035項目)を収載した。網文(できごとの要約文)については、できるだけわかりやすい文言を用い、典拠史料については、同時代史料(書状類・日記等、写本を含む)を中心に、後年に作成された覚書・雑記類でも典拠史料として相応しいかどうか十分検討し、前巻同様、信のおける史料集となるよう努めた。

< 成果について >

本報告書の編集を通して、文献史料から宝暦火災以降、明治維新までの金沢城の変遷を通覧することが可能になった。編集に際しては『加賀藩史料』の典拠になっているものでも一つ一つ原史料に立ち回り確認作業を行った。また、新たな史料の発掘にも努め、『加賀藩史料』に収載されない、次のような事項も確認できた。

- ① 弘化2年(1845)金谷出丸に世子慶寧の金谷御殿と真龍院(12代前田斉広正室)の御殿(松の御殿)が並置されることになったのを背景に、翌弘化3年、13代斉泰の子息である基五郎・豊之丞の住まいを二ノ丸御殿の松の間二の間に設けることとしたが、これに伴い年寄中席が檜垣の間に移していたことなど、従来知られていなかった記述も確認できた。
- ② 安政5年(1858)2月の地震で、御居間廻りや御居間先土蔵も被害を受けた。御居間廻りの普請に取りかかるとともに、同年6月には御居間先土蔵の取りこわしを行うこととし、7月から9月にかけては、御庭の手入れや御居間先に的場を築くなど御居間周辺の整備が進められたことが新たにわかった。
- ③ 前田慶寧が金沢城を出て、本多邸に移った日について『加賀藩史料』では記されていないが、「諸事留帳」などの記述により、明治2年(1869)11月18日と確定できた。



「公私心覚」15 安政5年6月20日条(金沢市立玉川図書館加越能文庫蔵)
安政5年(1858)2月の地震で破損した御居間先土蔵の取り壊しを決定した。



横山政和「諸事留帳」16 明治2年11月18日条（金沢市立玉川図書館加越能文庫蔵）

この日、前田慶寧は、金沢城から重臣本多邸に移住した。

(ウ) 調査

原本確認や伝本確認のため、金沢市立玉川図書館を中心に、調査を行った。

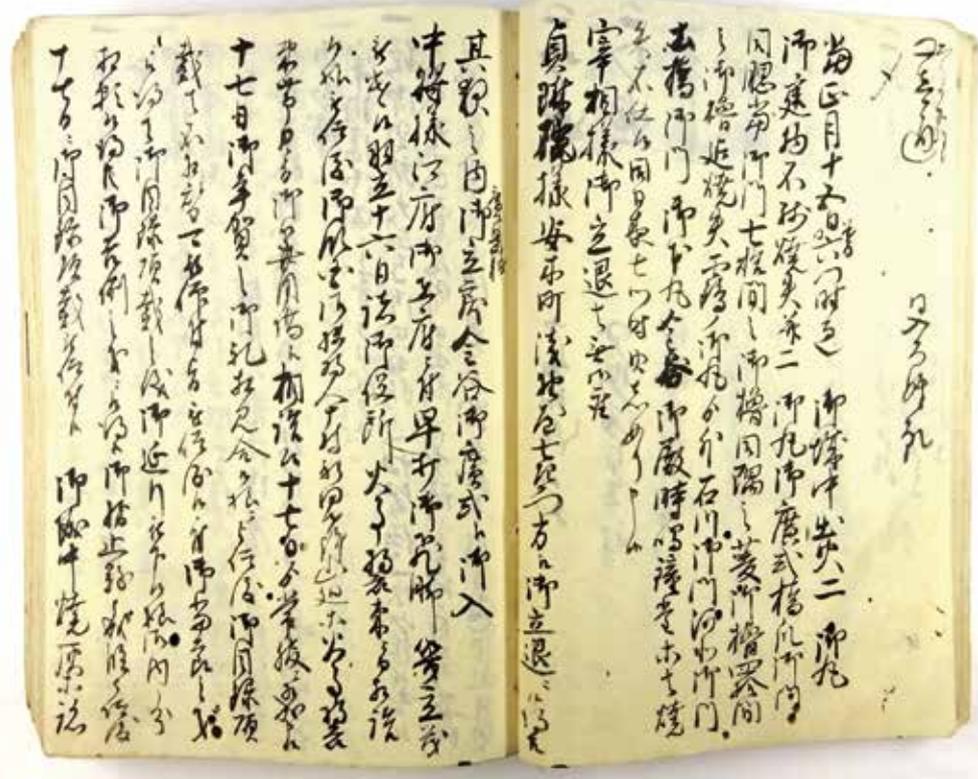
〔参考〕『金沢城総合年表 後編』構成

1. 仕様 A5判 147頁 上製本
2. 内容構成
 - (1) 凡例
 - (2) 本文（宝暦9年～明治4年） * 綱文、典拠史料の記載
 - (3) 史料解題 * 典拠とした史料を簡潔に解説

(2) 継続発展調査事業等

ア 絵図・文献調査

- ・金沢市立玉川図書館に所蔵される金沢城関連の文献史料を中心に調査を進めた。
- ・砺波郡三清村の十村武部家の史料（金沢市立玉川図書館蔵）に、文化の大火に関わる記事があることを新たに確認した。
- ・本多図書家文書（個人蔵）のなかに、「二之御丸御殿御造営内装等及見本・絵形」（金沢市立玉川図書館蔵）関連の文献史料があり、撮影のうえ、解読を進めた。
- ・『加賀藩史料』から文化の再建事業後の金沢城二ノ丸御殿内各部屋の機能に関する記述を抄出し、整理を進めた。



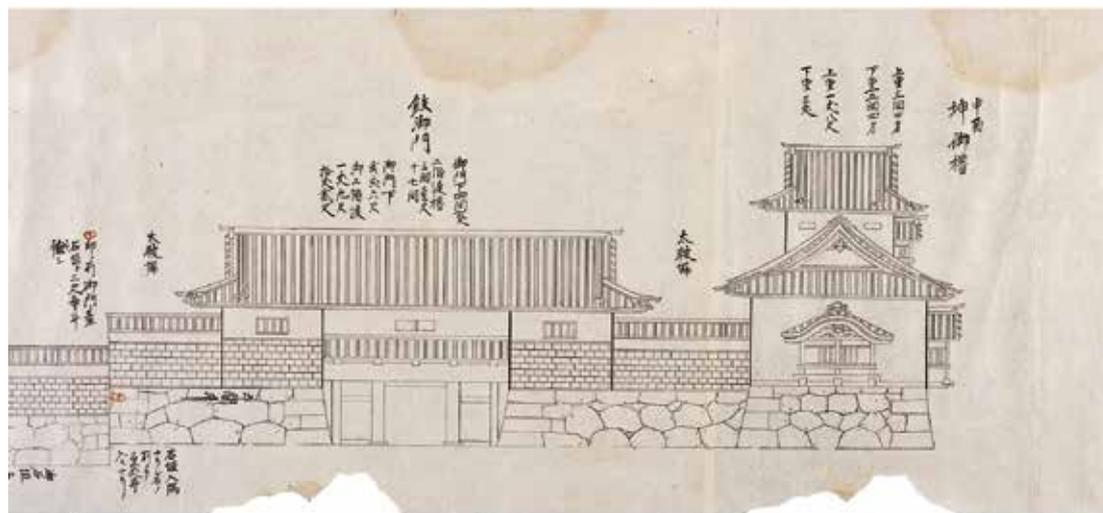
「砺波郡留帳」（金沢市立玉川図書館武部文庫蔵）

越中砺波郡三清村の十村武部家に伝来した留帳で、文化5年（1808）の二ノ丸御殿焼失を記している。

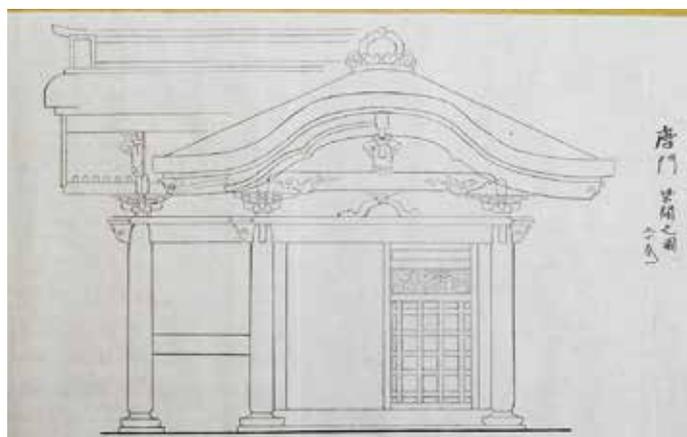
イ 建造物調査

・城門の調査

平成30年度作成の基礎資料「金沢城 城門図面集成」に基づき、金沢城の城門に関する調査成果の取りまとめに向け検討を進めた。



「加州金沢御城来因略記」 (石川県立図書館蔵)



「造作弁図解 上下」
(金沢市立玉川図書館清水文庫蔵)



二ノ丸唐門
(現 尾山神社東神門) の扉部分

ウ 金沢城埋蔵文化財資料集成

事業概要

金沢城に関する絵図・文献、埋蔵文化財、建造物、石垣等の資料については、整理・収集を行い、データベースを構築し、保存・活用を図ることとしている。

本事業は、埋蔵文化財資料のうち出土品について集成を行うものである。

事業内容

a 出土品資料集成

- ・各報告書において、個別に報告されている出土品資料（実測図や写真・観察表）を集成し、種類ごとに分類する。
- ・本年度は、『金沢城史料叢書40 金沢城跡－鼠多門・鼠多門橋Ⅱ－』収録の出土品について集成作業を行った。

b 『金沢城出土品図録－モノからみた金沢城－』の刊行

- ・調査研究20年のとりまとめの一環として、これまで蓄積した出土品を新たな視点で検討し、その成果を広く一般に情報発信するため、図録を作成した。
- ・出土品について、用途や材質、年代等をテーマに解説している。
- ・刊行 令和4年3月末
- ・仕様 カラー100頁 700部



出土品図録

鼠多門 磁器（皿）

品目番号	調査番号	種別	材質	形状	説明	寸法	重量	状態	出土状況	備考		
1051	8022	磁器	黒	C5	モクジャンベレット 鉢	12.5	12.0	整	白	山内遺跡(溝口古町)・新田遺跡		
1054	8041	磁器	黒	D0	黒化アゴ 鉢	15.0	14.0	4.1	整	白	新田遺跡	
1055	8036	磁器	黒	D0	黒化アゴ 鉢	13.5	13.4	3.9	整	白	新田遺跡	
1056	8069	磁器	黒	C4	鉢	14.2	13.2	整	白	新田遺跡	19C	
1057	8066	磁器	黒	C4	鉢	14.2	13.2	整	白	新田遺跡	19C	
1058	8029	磁器	黒	D0	鉢	15.0	14.0	3.1	整	白	新田遺跡	山内五等堂(下野原)・19C
1059	8031	磁器	黒	D0	鉢	15.0	14.0	3.1	整	白	新田遺跡	山内五等堂(ワシバキヤ)・19C
1060	8069	磁器	黒	D2	鉢	12.0	11.2	3.1	整	白	新田遺跡	19C
1070	8140	磁器	黒	C2	鉢	14.0	13.0	整	白	新田遺跡	新田遺跡(内蔵)	
1071	8033	磁器	黒	D0	鉢	15.0	14.2	整	白	新田遺跡	新田遺跡	
1072	8053	磁器	黒	D0	鉢	15.0	14.2	整	白	新田遺跡	新田遺跡	
1073	8036	磁器	黒	C4	鉢	15.0	14.2	整	白	新田遺跡	新田遺跡	
1074	8059	磁器	黒	C9	鉢	15.0	14.2	整	白	新田遺跡	新田遺跡	
1075	8065	磁器	黒	C4	鉢	15.0	14.2	整	白	新田遺跡	新田遺跡	
1076	8050	磁器	黒	C5	鉢	15.0	14.0	4.0	整	白	新田遺跡	山内五等堂(ワシバキヤ)・19C
1077	8026	磁器	黒	C5	鉢	14.0	13.0	整	白	新田遺跡	新田遺跡	
1078	8023	磁器	黒	C4	鉢	15.0	14.0	整	白	新田遺跡	新田遺跡	
1080	8046	磁器	黒	D0	鉢	14.0	13.0	整	白	新田遺跡	山内五等堂(ワシバキヤ)・19C	
1081	8028	磁器	黒	C4	鉢	15.0	14.0	整	白	新田遺跡	山内五等堂(ワシバキヤ)・19C	
1082	8073	磁器	黒	C4	鉢	15.0	14.0	整	白	新田遺跡	山内五等堂(ワシバキヤ)・19C	
1083	8066	磁器	黒	C4	鉢	14.0	13.0	整	白	新田遺跡	山内五等堂(ワシバキヤ)・19C	
1084	8034	磁器	黒	C4	鉢	15.0	14.0	整	白	新田遺跡	山内五等堂(ワシバキヤ)・19C	

出土品資料集成

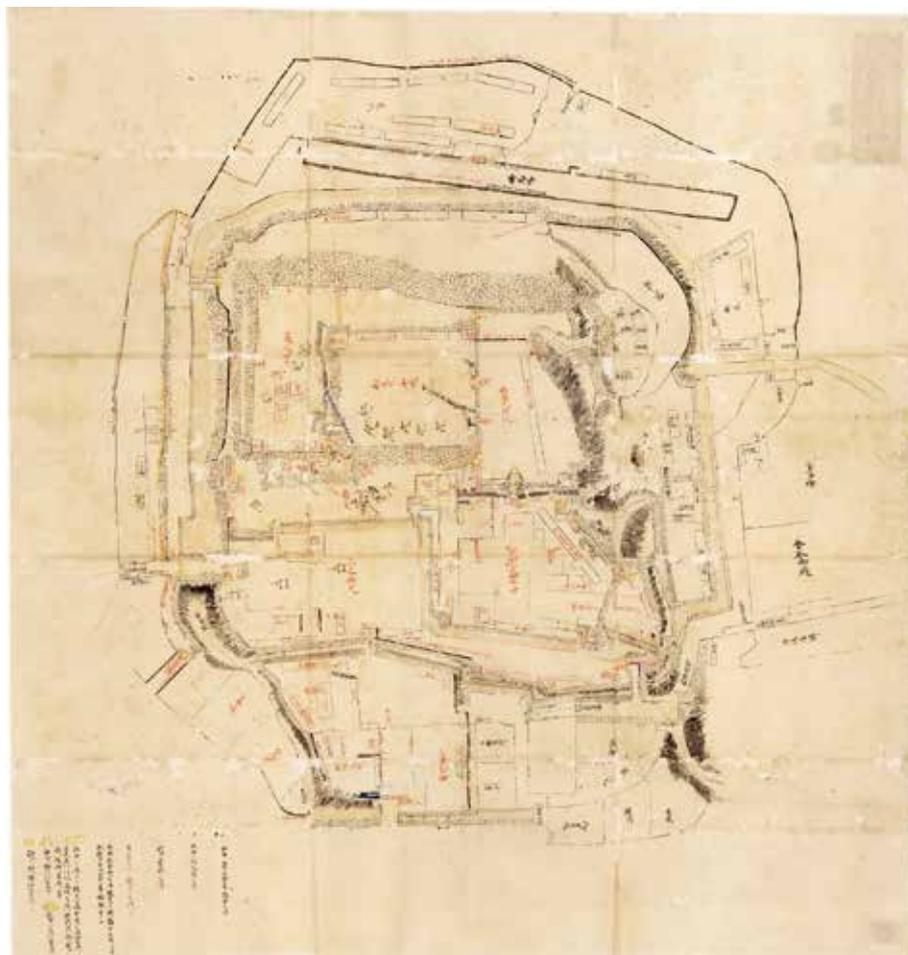
2 金沢城資料収集・デジタル化事業

事業概要

金沢城資料収集事業は、金沢城に関連する城絵図、城下町絵図等の絵図資料の写真撮影を進め、金沢城調査研究の基礎資料として、また情報発信のデータバンクとして活用するため、平成14年度から継続的に進めている事業である。

絵図資料のデジタル化

デジタル化（デジタルデータ化）によって、原寸では難しかった微細な文字情報等の判読といった絵図資料の解析が容易になる。本年度は、横山隆昭氏蔵「御城中壺分碁絵図」、金沢大学附属図書館蔵「二の御丸惣絵図（三歩碁）」、金沢市立玉川図書館蔵「金沢城類焼後御普請等被仰付候絵図」・「文化焼失以前二の丸之図」、および加賀藩穴生関係史料6点につき、スキヤニングによるデジタル化、および一部については複製品の作成を行った。



金沢城類焼後御普請等被仰付候絵図（金沢市立玉川図書館蔵）

3 金沢城情報発信事業

事業概要

調査研究事業の成果を情報発信するために、研究紀要、及び金沢城史料叢書として『金沢城総合年表 後編』、『金沢城跡切石積石垣確認調査報告書』、『金沢城跡石垣保存実態調査報告書Ⅱ』、『金沢城出土品図録』の4冊を刊行した。また、「金沢城大学」の開催、金沢城ARアプリの運用、講師派遣等を行った。

(1) 研究紀要・史料叢書等の刊行

①研究紀要『金沢城研究』第20号（A4版92頁800部）

内 容

【特集】金沢城シンポジウム「近世前期の金沢城－利常・綱紀の城づくり－」

報告1	利常・綱紀の城づくり	石野 友康
報告2	二ノ丸造成と庭園整備	滝川 重徳
報告3	寛永・寛文期の石垣普請	富田和気夫
報告4	近世城郭の御殿空間	麓 和善

パネルディスカッション

【調査報告】

金沢城跡出土銅板の調査について	富田和気夫
金沢城跡から出土した銅板の黒色塗料の調査	赤田昌倫・渡邊緩子

【史料紹介】

真龍院御殿への筆納入史料について	石野 友康
国祖遺言（上）	大西 泰正

②年報14（令和2年度）（A4版31頁600部）

③金沢城史料叢書41『金沢城総合年表 後編』（A5版147頁800部）

④金沢城史料叢書42『金沢城跡切石積石垣確認調査報告書』（A4版180頁500部）

⑤金沢城史料叢書43『金沢城跡石垣保存実態調査報告書Ⅱ』（A4版168頁500部）

⑥金沢城史料叢書44『金沢城出土品図録—モノから見た金沢城—』（A4版100頁700部）

⑦『金沢城調査研究の20年』（A4版64頁900部）

(2) 金沢城大学

城と庭の探究講座「金沢城大学」 全て〔公開講座〕

会場 石川県立美術館ホール（第1・2回は石川県文教会館ホール）

回数	実施日	講 座	講 師
1	10月24日(土)	基調講演 金沢城調査研究の20年	前石川県金沢城調査研究所長 木越 隆三
		講演1 日本の近世城郭と金沢城	奈良大学教授 千田 嘉博
		講演2 石垣からみた金沢城跡の魅力	東北芸術工科大学教授 北野 博司
		パネルディスカッション「金沢城調査研究20年の歩みとこれから」	パネリスト：講師3名

2	11月4日(木)	江戸時代の植物ブームと兼六園の花木	金沢城・兼六園研究会副会長 中田 廉子
3	11月11日(木)	明治初年の加賀藩職制改革	金沢市立玉川図書館近世史料館 学芸員 宮下 和幸
4	12月16日(木)	史跡七尾城跡の調査と整備・活用について	七尾市教育委員会スポーツ・文化課 専門員 北林 雅康
5	12月23日(木)	復元工事で継承される伝統建築技法	株式会社 金沢伝統建築設計 代表取締役 森田 守
6	1月13日(木)	玉泉院丸庭園と金谷御殿	石川郷土史学会 幹事 横山 方子
7	1月20日(木)	真龍院と兼六園の関わりについて	金沢城・兼六園研究会名誉会員 加藤 力
8	2月10日(木)	武家の年中行事	地域文化総合研究所代表 長谷川孝徳
9	2月17日(木)	金沢城の復元整備	石川県土木部公園緑地課課長補佐 大脇 暢博

(3) 『金沢城ARアプリ』運用

金沢城や兼六園に関する調査研究の成果などを『歴史・文化プレミアム情報』として配信するスマートフォン用解説アプリ『金沢城ARアプリ』を運用した。

(4) 講師派遣

- * 金沢職人大学校専修科 (7/16)、金沢職人大学校専修科視察研修 (7/30)、松柏会創立45周年記念教育懇話会 (10/27)、味噌蔵地区婦人会 (県政出前講座、11/24)、千坂公民館 (県政出前講座、2/24)、発掘報告会「いしかわを掘る」(3/6)

(5) 金沢城絵図の活用促進

作成した高精細な複製品を、金沢城発掘展「モノで巡る金沢城」や、シンポジウム開催時に展示した。

4 金沢城調査研究所設立 20 周年記念事業

事業概要

研究所設立 20 年の節目にあたり、調査研究の推進に貢献した協力者に感謝の意を表する金沢城調査研究所設立 20 周年記念式典や、金沢城シンポジウム・金沢城発掘展「モノで巡る金沢城」・金沢城スペシャルガイドツアーを開催したほか、『金沢城出土品図録』を刊行した。

(1) 金沢城調査研究所設立 20 周年記念式典・金沢城シンポジウム

調査研究の推進に貢献した協力者に感謝の意を表するため、金沢城調査研究所設立 20 周年記念式典を行った。あわせてシンポジウム「金沢城調査研究 20 年の歩みとこれから」を開催し、金沢城の特徴や魅力を広く県内外に発信した。当日は県内外から約 260 名の参加があった。

期 日 令和 3 年 10 月 23 日 (土)

会 場 石川県文教会館ホール (金沢市尾山町 10-5)

主 催 石川県・石川県教育委員会

* シンポジウム 主 題 「金沢城調査研究 20 年の歩みとこれから」

対 象 一般県民、全国の城郭愛好家及び研究者等

<記念式典> 10 月 23 日 (土) 13:00 ~ 13:30

式辞 石川県知事 谷本 正憲

祝辞 石川県議会議長 向出 勉

来賓紹介、祝電披露、感謝状贈呈、感謝状被贈呈者代表挨拶 (北垣名誉所長)

* 感謝状被贈呈者

(1) 歴代所長 北垣聰一郎氏 (城郭石垣)、木越隆三氏 (近世史)

(2) 金沢城調査研究委員会委員 平井聖氏 (委員長: 建築史)、吉岡康暢氏 (考古)
飛田範夫氏 (庭園史)

(3) 調査協力者・機関 公益財団法人前田育徳会、公益財団法人成巽閣、横山隆昭氏

<シンポジウム> 10 月 23 日 (土) 13:40 ~ 17:00

13:40 開会 主催者挨拶 徳田 博 (石川県教育委員会教育長)

13:45 ~ 14:35 基調講演 金沢城調査研究の 20 年 木越 隆三 (前石川県金沢城調査研究所長)

14:35 ~ 15:25 講演 1 日本の近世城郭と金沢城 千田 嘉博 (奈良大学教授)

15:25 ~ 16:15 講演 2 石垣からみた金沢城跡の魅力 北野 博司 (東北芸術工科大学教授)

16:25 ~ 17:00 パネルディスカッション「金沢城調査研究 20 年の歩みとこれから」

17:00 閉会

(2) 金沢城発掘展「モノで巡る金沢城」

これまで進めてきた発掘調査によってわかった金沢城各所の変遷や特徴について、出土品・写真・絵図等で解説し、金沢城の魅力を発信した。

期 間 令和 3 年 10 月 9 日 (土) ~ 12 月 21 日 (日)

会 場 金沢城公園 河北門・鼠多門 ※展示解説パンフレット作成

* 展示解説 (10/9・10/17・10/24・11/6・11/13 計 5 回 参加人数延べ 89 名)



知事式辞



シンポジウムの様子

(3) 金沢城スペシャルガイドツアー

所員や外部の専門家が、石垣・庭園・建造物を見るポイントを現地で解説することにより、金沢城ならではの特徴を一段掘り下げて伝えた。

期 日 令和3年10月9日(土)・29日(金)・30日(土)、11月5日(金)・6日(土)
・19日(金)・20日(土) 全10回

コース 「石垣」「建造物」「庭園」

定 員 1回20名程度 ※現地解説パンフレット作成(参加人数:延べ207名)



金沢城スペシャルガイドツアー



金沢城発掘展「モノで巡る金沢城」

(4) 金沢城出土品図録

調査研究20年のとりまとめの一環として、これまで蓄積した出土品を新たな視点で検討し、その成果を広く一般に情報発信するため、『金沢城出土品図録』を作成した。

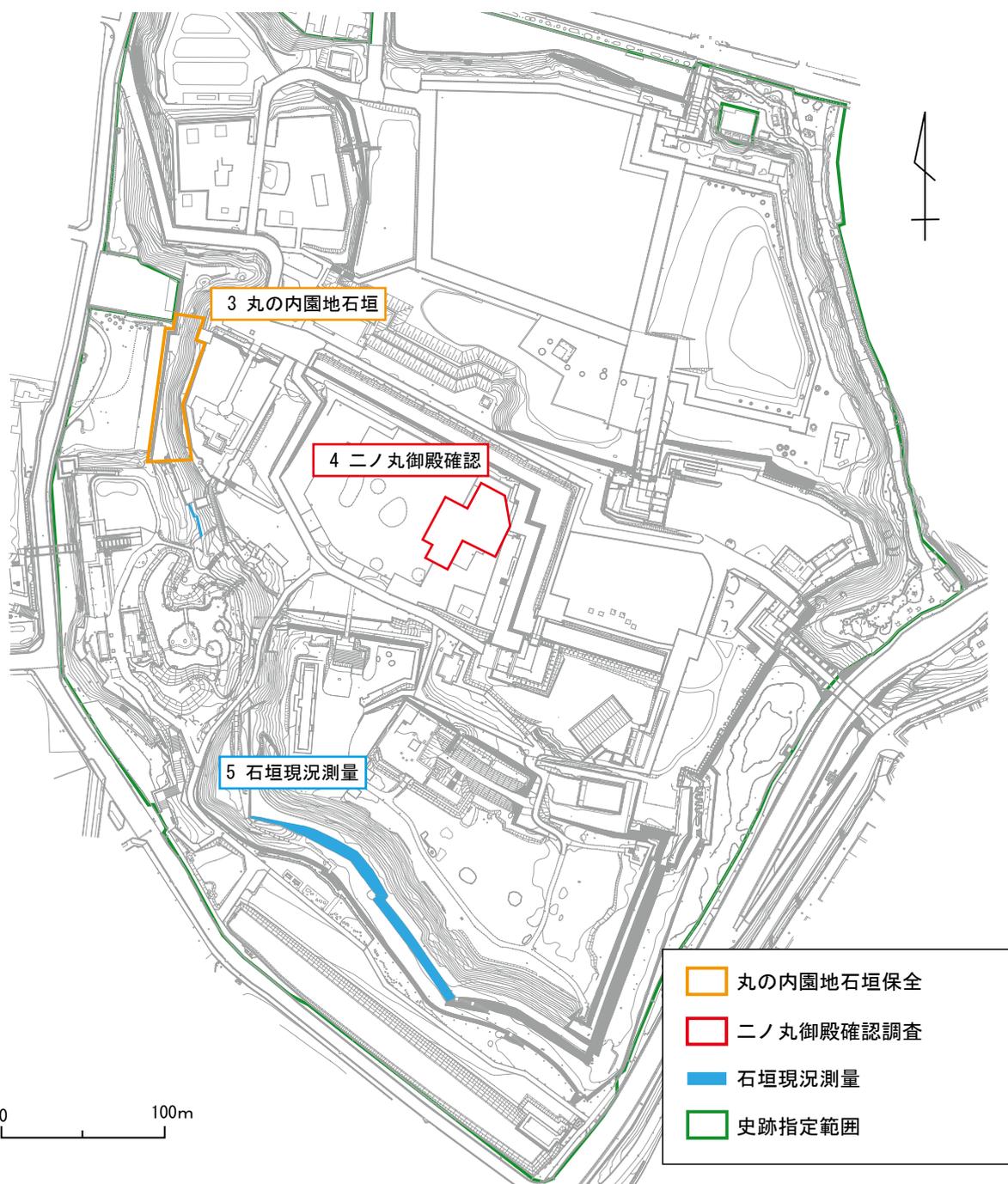
5 その他の事業（金沢城公園整備等に伴う調査等）

（1）事業概要

令和3年度は、金沢城公園整備事業（県公園緑地課所管）に係る丸の内園地石垣保全に伴う上面遺構確認調査、二ノ丸御殿確認調査を行ったほか、石垣現況測量を実施した。

丸の内園地石垣については、石垣保全工事に先立ち適切な遺構保存を図る上で必要な情報を取得するため、発掘調査を行った。二ノ丸御殿については、御殿復元根拠となる情報の取得や、遺構の確実な保存を測るため、発掘調査を行った。

石垣現況測量については、本丸南（大シノギ～申酉櫓下）および玉泉院丸北泉水縁石垣の三次元計測を実施した。



(2) 丸の内園地石垣保全に伴う確認調査

事業の概要

近年顕著に変形が進行している丸の内園地石垣（数寄屋屋敷西堀縁石垣）の保全工事に先立ち、埋蔵文化財確認調査を実施し、適切な遺構保存を図る上で必要な情報を取得する。

調査期間：令和3年5月24日～8月30日

調査面積：240㎡

現地指導：令和3年7月2・9日（金沢城調査研究専門委員会委員）

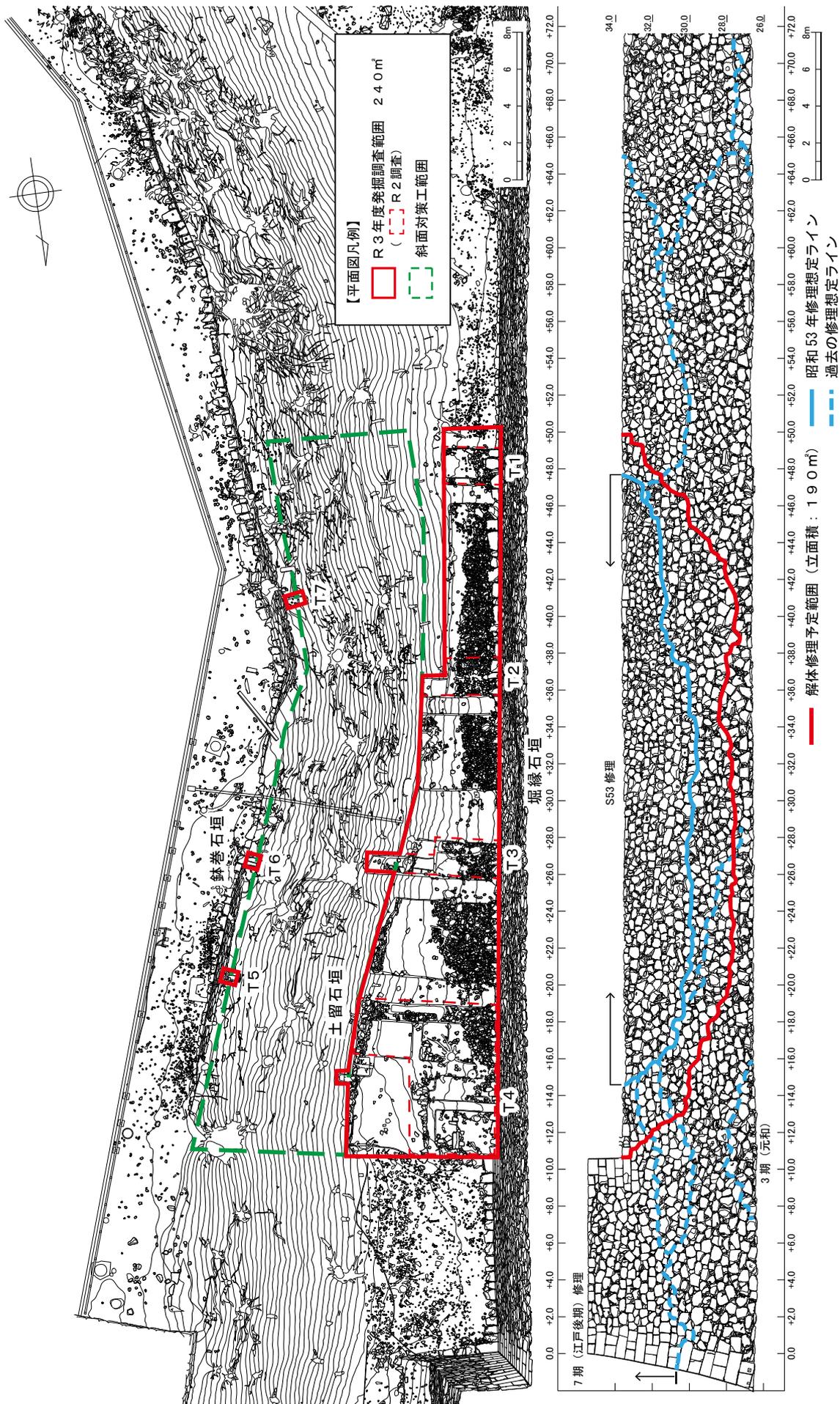
8月2日（金沢城石垣の保存・整備等指導会）

調査の成果

数寄屋屋敷西堀縁石垣の保全工事に伴う法面对策工に先立ち、遺構保存が確実なものとなるよう工事の設計を調整するため、昨年度トレンチ調査で検出した斜面裾部の土留石垣の広がりや斜面上部にある鉢巻石垣基部について確認した。土留石垣は調査区の北端から約20mあたりまでに終息することが確実となり、鉢巻石垣はトレンチ5と7で根石の位置を確認した。また、来年度より着手予定の石垣解体修理に伴う上面遺構調査を実施し、堀縁石垣の昭和53年修理時の掘削範囲を面的に検出した。



数寄屋屋敷西堀縁石垣（北から） 昭和53年修理時の掘削範囲を確認





土留石垣（北西から）



鉢巻石垣 トレンチ5（西から）



鉢巻石垣 トレンチ6（西から）



鉢巻石垣 トレンチ7（西から）



鉢巻石垣 トレンチ7（西から）

(3) 二ノ丸御殿確認調査

調査の概要

近世前期以降、金沢城の中枢部で、明治14年(1881)に焼失するまで存在していた二ノ丸御殿について、埋蔵文化財確認調査を実施し、遺構の位置や内容等を確認することで、復元整備の根拠となる情報を取得し、遺構の確実な保存を図る。

調査期間：令和3年5月17日～12月17日 調査面積：1,600㎡

現地指導：令和3年7月2・9日(金沢城調査研究専門委員会委員)

11月18・26・30日、12月1日(金沢城二ノ丸御殿復元整備専門委員会委員)

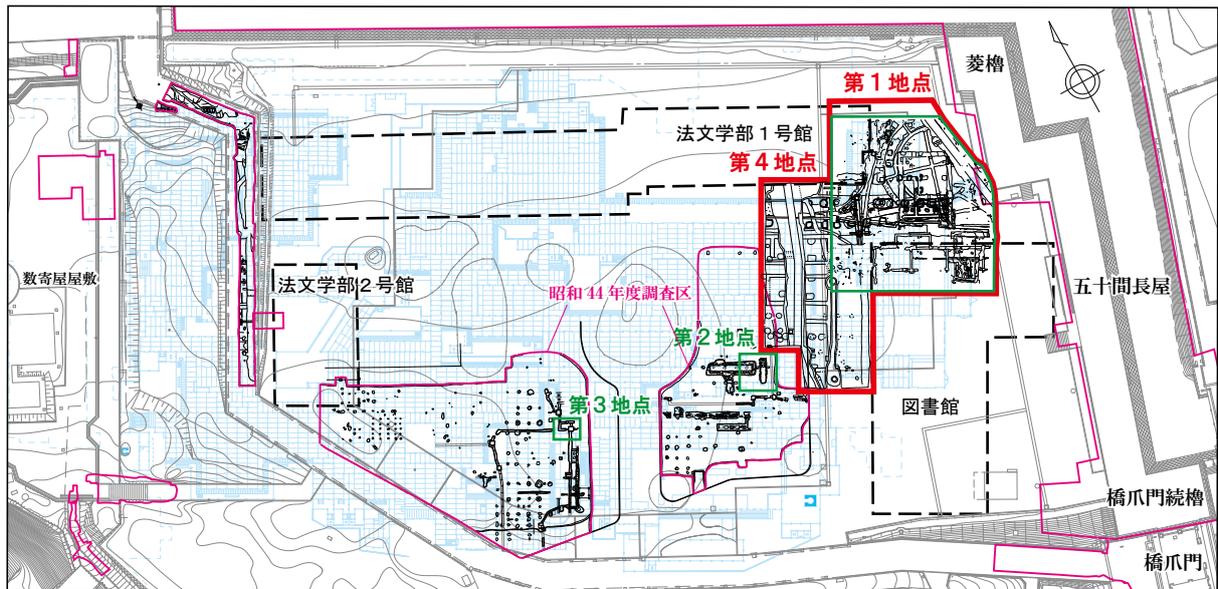
現地公開：令和3年12月2日(報道)、4日(一般 参加人数：160名)

調査の成果

- ・今年度は、二ノ丸御殿の北東部にあたる区域の調査を実施した。その結果、江戸後期の御殿建物の柱を支える礎石根固めを30箇所確認した。これらは表式台から虎ノ間・竹ノ間へと延びる広縁両側の柱列と、実検ノ間及び坊主溜にかけての柱列に対応しており、御殿北東部における主要建物の位置が特定された。
- ・礎石根固めの間隔は、「二ノ丸御殿建物指図」に記載された柱間寸法とおよそ整合しており、復元根拠史料としての同絵図の信頼性が確認された。
- ・礎石の根固めには、幅1.2～1.4m、深さ約1mの穴に、川原石や戸室石の割材を充填するタイプと、1辺50cm前後の大型石材1石を据え置き、周囲を土と川原石で充填するタイプを確認した。大型石材を据え置くタイプは、建物の外周に位置する傾向が認められる。
- ・広縁内側では、礎石根固め列と平行する束石の抜取痕と考えられる小穴列を確認した。
- ・このほか調査途中であるが、雨水排水用の石組溝や、建物南側の礎石・礎石根固め、陸軍第九師団司令部庁舎の煉瓦基礎遺構なども確認しており、次年度に精査を予定している。



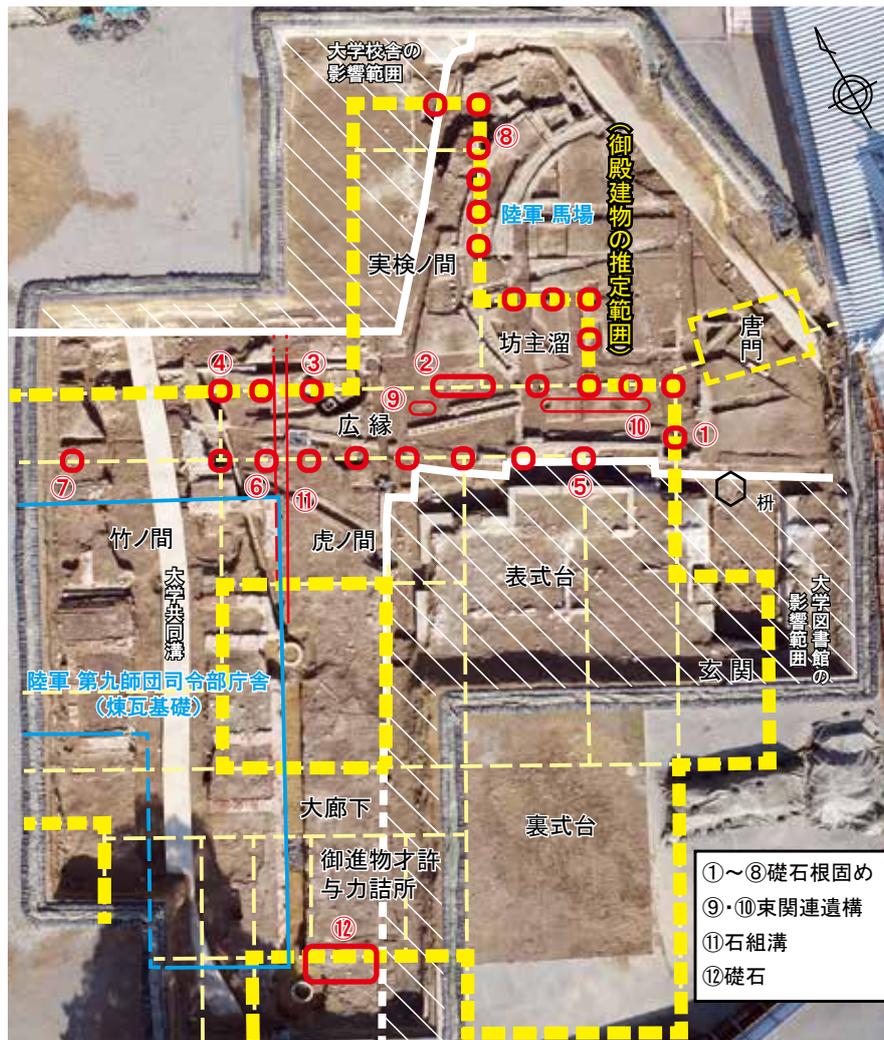
調査地点遠景(西から)



■ 令和3年度調査範囲
■ 令和2年度調査範囲
■ 既往の調査区(二ノ丸付近)
 参考：『金沢城二ノ丸跡発掘調査概報』(石川県教育委員会 1970) 他

金沢大学校舎・図書館があった範囲
 ※青線：近世後期の二ノ丸御殿(部分)
 「二之丸御殿建物指図」(金沢市立玉川図書館蔵)等を参考に作成

二ノ丸調査区等配置図



調査区平面 垂直写真



広縁両側の礎石根固め列
(西→東)

大型石材配置



①



③



④

川原石等充填



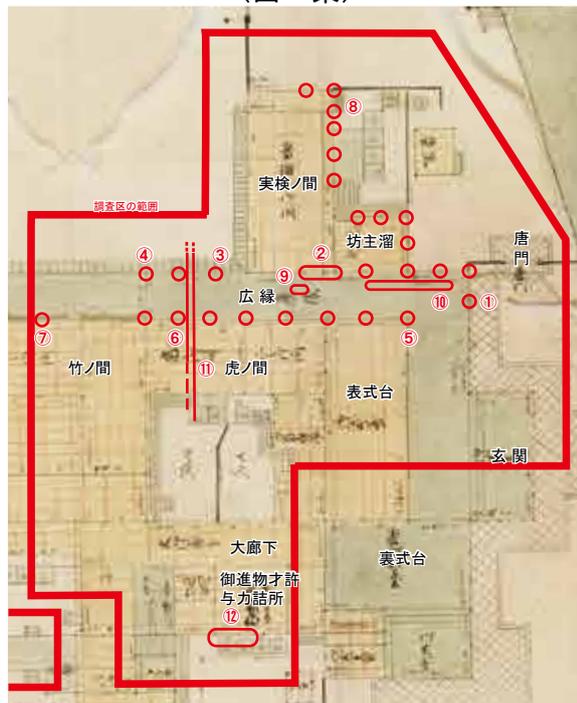
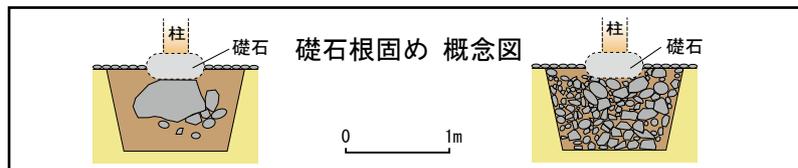
⑦



⑥



⑤



遺構の位置と絵図

「二の御丸惣絵図」(部分・加筆) 金沢大学附属図書館蔵



②礎石根固め・礎石抜取痕



⑩東石抜取痕



⑨東石



実検ノ間東側の礎石根固め列（南→北）

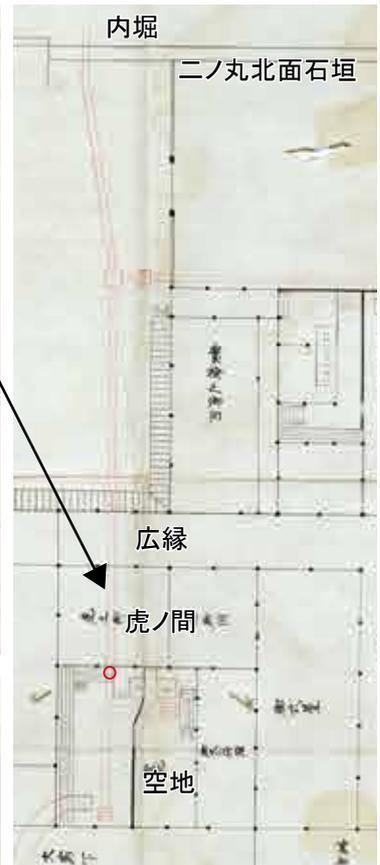


⑧



⑪石組溝

凝灰岩製の部材が一部遺存。



「二ノ丸万年樋絵図」（部分・加筆）
大友佐俊氏蔵



⑫御進物才許与力詰所南側の礎石



旧第九師団司令部庁舎
(現国立工芸館)



第九師団司令部庁舎煉瓦基礎



「金澤旧城郭 第九師團司令部 歩兵第七聯隊歩兵第六旅團司令部第九師團城内被服庫金澤憲兵隊 配置図」[陸軍省-大日記乙輯-S1-3-14]
(階調反転 部分・加筆)
防衛研究所戦史研究センター蔵

事業費

令和3年度（最終予算額）

（単位：千円）

事業名	事業費
金沢城調査研究所運営費 （金沢城調査研究委員会の開催等）	9,450
金沢城調査研究事業費 総合研究 ・城郭庭園等の総合研究 ・石垣保存管理技術等の総合研究 ・金沢城関連城郭等との連携 ・『金沢城編年史料』等の編纂 基礎的調査研究 ・絵図・文献の基礎的調査 ・建造物の基礎的調査	5,551 92
金沢城資料収集・デジタル化事業費 （絵図撮影等）	631
金沢城情報発信事業費 （史料叢書、研究紀要等の刊行等）	691
金沢城調査研究20周年記念事業費 （記念式典・シンポジウム、ガイドツアー、 金沢城発掘展の開催、記念図録の刊行等）	7,181
合 計	23,596
その他の事業費 ・金沢城公園整備に伴う調査	164,296
合 計	164,296
再 計	187,892

石川県金沢城調査研究所日誌（抄）

（令和3年）

- 4月 2日（金） 絵図・文献調査開始（金沢市立玉川図書館）（～ 3/31）
- 4月 26日（月） 金沢城出土品調査現地指導（国立アイヌ民族博物館赤田研究員）（～ 4/27）
- 5月 17日（月） 二ノ丸御殿確認調査（作業員による調査着手）（～ 12/17）
- 5月 24日（月） 二ノ丸御殿確認調査（重機掘削着手）（～ 6/8）
- 〃 丸の内園地石垣保全確認調査（調査着手）（～ 5/25）
- 7月 2日（金） 第1回金沢城調査研究埋蔵文化財・伝統技術（石垣）合同専門委員会・現地指導
- 7月 9日（金） 金沢城跡埋蔵文化財調査に係る現地指導（千田委員）
- 7月 16日（金） 講師派遣（金沢職人大学校専修科）
- 7月 22日（木） 金沢城跡出土銅瓦塗膜分析現地指導（～ 7/23）
- 7月 30日（金） 講師派遣（金沢職人大学校専修科視察研修）
- 8月 2日（月） 金沢城 石垣の保存・整備等指導会
- 8月 3日（火） 第1回金沢城二の丸御殿復元整備専門委員会
- 8月 18日（水） 第1回金沢城調査研究絵図・文献専門委員会
- 10月 8日（金） 報道機関現地説明（金沢城発掘展）
- 10月 9日（土） 金沢城スペシャルガイドツアー（11/20まで全10回）
金沢城発掘展「モノで巡る金沢城」（～ 11/21。展示解説全5回）
- 10月 10日（日） 尾山神社庭園解説（金沢歴史遺産探訪月間 2021）
- 10月 23日（土） 金沢城調査研究所設立 20周年記念式典
シンポジウム「金沢城調査研究 20年の歩みとこれから」
- 10月 27日（水） 講師派遣（松柏会創立 45周年記念教育懇話会）
- 11月 15日（月） 金沢城跡石垣調査に係る現地指導
- 11月 18日（木） 金沢城跡埋蔵文化財調査に係る現地指導
- 11月 24日（水） 講師派遣（県政出前講座。味噌蔵地区婦人会）
- 11月 25日（木） 第1回金沢城関連城郭等情報連絡会
- 11月 26日（金） 金沢城跡埋蔵文化財調査に係る現地指導
- 12月 2日（木） 金沢城二ノ丸御殿確認調査現地説明会（報道向け）
- 12月 4日（土） 金沢城二ノ丸御殿確認調査現地説明会
- 12月 13日（月） 金沢城跡石垣調査に係る現地指導
- 12月 23日（木） 第2回金沢城二の丸御殿復元整備専門委員会

（令和4年）

- 1月 12日（水） 二ノ丸御殿確認調査に係る現地調査（～ 1/13）
- 1月 24日（月） 金沢城二の丸御殿復元整備専門委員会（オンライン）
- 2月 24日（木） 講師派遣（県政出前講座。千坂公民館）
- 2月 28日（月） 第2回金沢城関連城郭等情報連絡会
- 3月 1日（火） 第2回金沢城調査研究絵図・文献専門委員会
- 3月 6日（日） 講師派遣（発掘報告会「いしかわを掘る」）
- 3月 10日（木） 第2回金沢城調査研究埋蔵文化財・伝統技術（石垣）合同専門委員会

金沢城に関する新聞報道

(令和3年)

- 6月9日(水) 二の丸御殿復元へ専門委(北國新聞)
- 7月17日(土) 金沢城二の丸御殿 復元整備が本格始動 来月3日専門委初会合(北國新聞) / 社説 金沢城の鼠多門 史跡復元のお手本に(北陸中日新聞)
- 7月28日(水) 河北門 瓦反り上がる 金沢城公園 近く2度目修理(北國新聞)
- 8月4日(水) 金沢城二の丸御殿 復元に向け意見続々 整備専門委が初会合 「地盤の高さ慎重に」「障壁画の構図は」(北國新聞) / 二の丸御殿の復元 専門家アドバイス 石川県庁で初会合(北陸中日新聞)
- 8月29日(日) 20周年でシンポジウム 金沢城調査研究所、10月に 出土品の展示やガイドツアー実施(北國新聞)
- 10月12日(火) 金沢城調査研究所 20年の成果一堂に 初の企画展、出土品並ぶ(北國新聞)
- 10月28日(木) 二の丸御殿 24年着工 金沢城 金箔の壁に岸駒の虎 五十間長屋に情報発信拠点(北國新聞) / 金沢城二の丸御殿 「表向」24年度工事着手へ 虎の絵 壁や杉戸に5匹(北陸中日新聞)
- 11月4日(木) 金沢城調査研究所 20周年でシンポ 県文教会館(北國新聞)
- 12月3日(金) 三十間長屋の屋根瓦一新・二の丸御殿の発掘調査 「実検の間」位置確認(北國新聞) / 三十間長屋 瓦張り替えへ 金沢城公園 来年度から石川県 「実検ノ間」位置関係も特定(北陸中日新聞)
- 12月4日(土) 金沢城二の丸御殿発掘調査 北東部の位置関係特定 きょう現地説明会(毎日新聞)
- 12月5日(日) 金沢城二の丸御殿 140人 発掘現場見学 一般公開(北國新聞)
- 12月9日(木) 二の丸「主要建物 位置特定」 金沢城、復元へ 発掘調査状況説明(読売新聞)
- 12月20日(月) 金沢城二の丸御殿復元整備 技術継承、情報を発信(毎日新聞)
- 12月24日(金) 「表向」の基本設計 評価 二の丸御殿復元で専門委 県庁で第2回会合(北國新聞)

(令和4年)

- 1月1日(土) 百万石の「顔」豪華絢爛 金沢城二の丸御殿 玄関は総ケヤキ、漆塗り 県、新年度に実施設計 天井も格式高く 二の丸案内所 情報発信に特化(北國新聞)
- 1月5日(水) 谷本知事が年頭会見 岸駒の虎 再現に意欲 金沢城二の丸御殿復元で(北國新聞) / 金沢城二の丸御殿イメージ公表 表向 3～5期に分け復元 県、24年の着工目指し(北陸中日新聞)
- 1月27日(木) 二の丸御殿瓦模型展示 金沢城の復元整備事業 24年度着工へ機運盛り上げ 特徴分かりやすく紹介 いしかわ2022年度予算案(北國新聞)

金沢城調査研究所年報15

(令和3年度)

令和4年6月 発行

編集・発行 石川県金沢城調査研究所

〒920-0918

石川県金沢市尾山町10番5号

電話 076-223-9696 FAX 076-223-9697

E-mail kncastle@pref.ishikawa.lg.jp

<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kyoiku/bunkazai/kanazawazyo/index.html>